

指導者の自覚と責任を促し、町のクラブとして連帯感育む (たぬまアスレチッククラブ 栃木県佐野市)

1. クラブの概要

クラブ拠点を佐野市田沼町に置いている「たぬまアスレチッククラブ」（以下、クラブ）はスポーツ振興くじ助成事業（総合型地域スポーツクラブ自立支援事業、以下 toto）を受けて4年目になるクラブです。来年度助成が終了する5年目となり、助成終了後、どのような運営をしていくのかインタビューを行いました。対応していただいたのは、クラブマネジャーの清水さんです。同市中学校の校長先生を平成24年3月に退任される予定で、栃木県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の副会長もなされています。平成23年に日本体育協会公認クラブマネジャーも取得され、クラブに対しての熱い思いをお持ちです。

クラブの設立経緯は、平成17年度に市町合併（佐野市・田沼町・葛生町）があり、旧田沼町体育協会で行っていた体育祭やスポーツ大会などが佐野市に一本化されることから始まりました。合併によって「田沼町」の存在や名前がなくなり、今までのような地域のつながりが希薄になることが懸念されたからです。また、子どもの体力低下が進んでいたことから、「地域の子どものために、なんとかしたい」という思いで、平成19年度にクラブ設立準備委員会を立ち上げました。日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成推進事業（育成指定クラブ）を活用し平成20年2月にクラブとして設立されました。

クラブの活動は旧田沼町にある公共施設2カ所を中心に、シェイプアップ事業（健康系）、生き生きスポーツ事業（ニュースポーツ）、ジュニアスポーツ活動事業（スポーツ少年団）、スポーツクラブ育成事業（競技性が高い）、親子ふれあいスポーツ事業などの事業を設定しています。

また、クラブの理事会や運営委員会の組織は、クラブ役員又は各教室の指導者から成り立っており、会議の出席率は100%となっています。このことは、クラブの趣旨・目的の周知や会員のニーズなどが共有できる大きな強みです。



2. 助成金をもらった目的・成果

補助・助成金を概ね投入せず自主運営していくには、年会費の額を10,000円にしなければ採算が合わず、また会員数も増やす必要がありました。年会費は、設立当初7,000円、現在は8,000円であり、各コース（プログラム）の参加費は徴収していません。そのため、toto助成金を使って、活動の幅を広げて、会員数を増やしていこうとクラブでは考えました。

toto助成をもらう前の会員数は300人でしたが、現在は630名にまで増加しました。年会費の値上げを行っても会員が減らず増加傾向にあるということは、クラブ事業に付加価値がついたと考えられます。大会・イベントだけではなく、クラブが会員に対し日常的に参加しやすいスポーツ活動の場を提供しているため、年に1度のスポーツフェスティバルでは、会員が材料を持ち寄って豚汁をふるまってくれるそうです。「自分の住む町のクラブとして630名もの人が連帯

感をもって活動してくれているので、地域コミュニティの形成につながっている」と清水マネジャーは語ります。

また、関わるスタッフや指導者は、これまではボランティア感覚で行ってきましたが、助成金から報酬や謝金をもらうことになり、「クラブに関わる自覚と責任がより出てきた」という良い変化もありました。

クラブの活動の幅が広がることで活動場所の確保のため、公共施設に働きかける必要もでてきました。その結果、公共施設利用方法について、これまでと違う効率的な使い方へと風穴を開けることができました。例えば、ある公共施設ではこれまで午前中で終わる大会でも「終日利用」として団体の予約がなされていましたが、今は利用時間を細分化して無駄なく使うことができます。これまでの様々な活動実績や働きかけにより行政からの信頼も得て、クラブの活動では市のスポーツ振興課を通じて優先的に予約もできるようになっています。

3. 助成金の使途

助成金の使いみちについては、主に指導者の謝金、スポーツ用具、印刷製本費となっています。プレ事業として新しい種目を取り入れる準備に助成金を使うように意識しています。

現在は、各教室で使用しているボールやシャトルなどの消耗品にも支出していますが、会員には現在、toto 助成金をもらって運営していることはいつも話しをしているので、助成金終了後は受益者負担で徴収することをクラブでは考えています。

広報活動に関わる面では、「市政だより」に 1 回 10 万円、タウン紙に 1 回 3 万円で、年に 1 回ずつ広告を掲載していることです。とくに「市政だより」では、A4 サイズの半分の大きさの広告で目立つこともあり一昨年度から掲載を続けています。「市政だより」の掲載後、昼間の時間帯に行っている「エアロビクス」には主婦が、「健康体操」には 60 代の会員が増加しました。

4. アフターtotoに向けて

助成金終了後の運営については、委員や指導者謝金を抑えて運営していく方向になります。理事（21 名）、運営委員（20 名）はほとんどが指導者で構成されていますが、当初からボランティア意識で無償でも良いという意見が多く、クラブとしては 500~1,000 円程度の謝金で今後対応する予定です（現在の謝金は、1 時間 1,500 円）。

事務局員を、現在 2 名配置し謝金をクラブから支払っていますが、平成 24 年度からは定年退職後の清水マネジャーが本格的に取り組めるので、平成 24 年度中に NPO 法人化していくことも視野に入れていきます。

教室の経費については、平成 24 年度から「子どものためのゴルフ」教室を開催します。地元ゴルフ場との協働事業を行い、指導者謝金が高額の場合はゴルフ場側から支出してもらう契約で展開していきます。住民対象のゴルフ大会では、参加費 1,000 円で 80 人も集まるゴルフ愛好家が多い地域です。ゴルフ場はゴルフの普及や地域貢献活動に熱心なので、お互いに目的を合わせて、今後も新たな会員を増やしていきます。エアロビクスやヨガなど、指導者謝金が一定額以上の場合は、参加者から参加費をとっていく予定です。

現在、市の健康福祉課が 10 回コースで高齢者向けの運動事業を行っていますが、その事業委託や終了後の受け皿としてクラブが役割を果たせるように準備していきます。そのためにも NPO 法人格を取得し、「委託事業や施設指定管理なども受けられるような組織体制を作っていく」と清水マネジャーは語ります。



小学生から大人まで参加の「和太鼓」もある

5. 今後の課題など

長い目で見て会員 1,000 人を目標にしているため、中長期計画を作成し理事・運営委員に提示していく必要があります。今後は 50～60 代男性をターゲットに会員数増加のために事業を企画していきます。既存団体が実施している種目は場所や会員の奪い合いのような「摩擦」が起こることがあるため、その点に気を付けて検討する方向でいます。

最後に清水マネジャーから「平成 23 年度で中学校教諭を定年退職するので、クラブ運営に全力を注いで地域の人々の輪を広げていきたいです。そのためには運動していない人へアピールできる場として、佐野市の総合型クラブをとりまとめる活動も行っていきたい」と力強くお話をされていました。

クラブ取材を行って、助成金をもらうにあたって中長期計画を作成することが重要になってくると感じました。きちんとした計画の中で、多少変更もあるかも知れませんが、その計画を会員に周知し共有することは、総合型クラブが地域に根付くためにとても大切なことだと今回の取材で改めて思いました。

(久田利彦 栃木県クラブ育成アドバイザー)

【たぬまアスレチッククラブ プロフィール】

- 1. 設 立** 設立年月日：平成 20 年 2 月 24 日
設立経緯：市町村合併によって旧田沼町の体育祭などがなくなり地域の輪を保つためにクラブを発足しました。
- 2. 地 域** 地区人口：27,000 人（佐野市田沼地区、平成 24 年 2 月現在）
特 性：田舎の地域であるが、公共スポーツ施設が 2 カ所あります。
- 3. 運 営** 会員数：630 人（平成 24 年 2 月現在）
予 算：731.5 万円（平成 23 年度、うち toto 助成金の割合 47%）
- 4. 特 徴** 〒327-0306 栃木県佐野市戸室町 1592-2
TEL：0283-62-9779 FAX：0283-62-8340
Email：takeji@sweet.ocn.ne.jp

関連リンク：久田利彦氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/9.html>